

重点目標

地域とともに育ち、地域に感謝される学校づくりの推進

現 状

- ・大野岱吉野学園から借用している農地を活用して、全校児童生徒が農作業に取り組んでいる。また、地域人材による農作業指導、地域資源を活用した農産物の加工・販売等、6次産業化を推進しているが、生徒の実態に合わせた作業学習製品の改善が必要である。
- ・地域清掃や地域での除草・除雪ボランティア、地域での作業学習製品販売などの地域学習「絆プロジェクト」に継続して取り組み、地域の理解を得てきている。
- ・小規模校のよさを生かし、絆プロジェクトの一環として、月に一度学部を超えた学び合い「若たかタイム」を実施している。花壇の花苗植え、しその収穫等の縦割り活動や学部行事に他学部児童生徒を招待したり、実習を見学・体験したりするなどの学部を超えた学び合いを実施している。
- ・障害の重複化・多様化への対応とともに、医療的ケアの実施、重篤な食物アレルギー等への対応をきめ細かく進めていく必要がある。

具体的な目標

- 1 「絆プロジェクト」を教育課程の中核に据え、地域における貢献活動を継続し、地域に感謝される経験を積み重ねることで、地域の中で自信をもって自分の力を発揮できる児童生徒を育成する。
- 2 地域資源を活用した作業学習製品の開発や活動範囲の拡大を目指す。
- 3 将来の社会自立を見据え、育てたい資質・能力を明確にし、ICTを効果的に活用しながら「学びを実感」できる質の高い授業実践を行う。

目標達成のための方策

- 1 キャリアノートの活用を通して、児童生徒が目標をもって絆プロジェクトに取り組み、その中で自己の学びを実感できるようにする。
- 2 地域資源や人材を活用し、材料の調達や活動場所の開拓、教材研究などを行う。
- 3 教科を対象とした授業実践、評価及び改善を行う。また、ICTの活用による学習活動の充実にチャレンジする一人一実践と、実践を共有する会を実施する。

具体的な取組状況

- 1 学校間交流や除雪ボランティア等の地域貢献活動を行う際は、毎回キャリアノートに個人目標を立てて実践し、振り返ることを繰り返し行い、活動の記録を蓄積して、自分の成長を振り返るようにしている。
- 2 地域で生産している「炭」を利用した製品開発と、畑で栽培している「赤しそ」の染色の教材研究と清掃活動場所、作業学習製品販売場所の新規開拓を行った。
- 3 「児童生徒が主体的に学び、その学びを実感する授業づくり」の研究主題の下、各学部1回の全校授業研究会、月1回の研究日、ICT活用に向けた定期的な研修会を実施した。ICT推進リーダーと連携した全体研修また、学習指導要領に基づいた単元目標を設定し、「学びの実感」を目指した各学習活動の効果的な関連付けを図りながら単元の改善を行った。

P

D

達成状況	1 記録的な大雪にみまわれ、地域からの除雪ボランティアの要望が例年より多くあった。感謝される体験を通してキャリアノートには「周りの人を笑顔にしたい」「仲間と協力して効率よく作業できるようになりたい」などといった内容の記述が多く見られた。 2 染色について他校の作業班を見学し、染色の基本を学んだ。また、地域で炭焼きをしている方とつながりを持ち、作業学習の材料を調達することができた。 3 ICTを使った授業が日常的に見られるようになった。また、定期的な研修を通して活用の幅が広がった。	
------	---	--

自己評価	(評価) A (根拠) ・学校評価アンケートの「地域に感謝される学校づくり」という設問に対して、職員の100%、保護者の92%が「よい」、「まずまずよい」と回答している。 ・絆プロジェクトの一環として、月に一度学部を超えた学び合い「若たかタイム」では、今年度は花壇のデザインをみんなで考えた。第60回全県花だんコンクールで「特別優秀賞～秋田県教育長賞」、北秋田市花だんコンクールで「市長賞」を受賞した。 ・高等部がしその染色、中学部が炭を使った製品を開発した。高等部・中学部が協同した製品もでき、販売まで行うことができた。作業学習製品の販売場所、地域清掃も3か所新規開拓できた。 ・教科の学習で学んだことを他の学習や生活場面で生かされ、「学びの実感」を感じられる場面が多く見られた。今後もICTとアナログ教材のバランスを考え、ICTが効果的に使われているか検証していきたい。	C
------	---	---

学校関係者評価と意見	(評価) A (意見) ・学校がとてもきれいで、整理・整頓がされている。子どもたちが表情豊かに生き生きと意欲的に活動していて、先生との信頼関係がしっかりできていることが分かる。 ・これからもいろいろな場面で地域へ出ていくと、就職にも結び付くと思う。また、製品開発への取組は、挑戦することが「働く・生きる」につながる。地域に出て様々なことを学んでほしい。 ・共生社会を目指す上で、地域との連携は必須である。障害の有無に関わらず全ての人と一緒に活動できる機会が増えてほしい。 ・社会自立へ向け、ICTの活用におけるメリットとリスクを今後も検証し、授業等での活用に生かしてほしい。	C
------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・地域からのニーズに合わせた作業技術の向上、作業学習製品の質の向上を目指し、より地域とともに育ち、働く喜びを実感できる教育活動を計画・実践していく。 ・小規模校のよさを生かし、学部を超えた学び合いや地域貢献活動を積極的に実施していく中で、児童生徒の「人とかかわる力」や「伝える力」を高めていく。 ・自立活動の視点を取り入れ、児童生徒が主体的に学び、ICTを効果的に活用しながら授業づくりを推進し、授業の質の向上を図る。	A
-----------------------	---	---